

■ドイツ：経済エネルギー省次官、中長期的には容量市場の検討が必要と表明

連邦経済エネルギー省のバーケ事務次官は 2015 年 1 月 20 日に開かれた会合で、2～5 年の短期では供給余剰が続くため容量市場は不要とする一方、中長期的には再エネの増加に伴い現在の卸電力市場が十分に機能しなくなると考えられるため、検討していくことが必要との見解を示した。なお、欧州大で電力市場の統合を進めている欧州では、自国の発電事業者が隣国の供給事業者と契約を交わす、ないしはその逆も考えられるため、容量市場ないしはそれに代わる市場設計をドイツだけではなく周辺諸国や EU と協調して検討する重要性も指摘した。